

# 畑で育つ野菜は おいしい！



四季の営農  
ワンポイント  
アドバイス  
【営農指導】

## ◆土づくりの目的

「土づくり」とは何のために行うのか、その目的を考えてみましょう。

- ・病害を出さない
  - ・高品質が期待できる
  - ・多収穫が期待できる
  - ・安全性が確保される
  - ・作物本来のうまみ、食感が楽しめる
  - ・栄養価や日持ちが良くなる
- このような土づくりの目的を実現してくれる土壌は、**物理性・生物性・化学性**のバランスが健全な土と言えます。

3月に入り雪融けも進みつつありますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。現時点では雪融けが早いと予想されますが、雪が融けて土が見え始めれば、いよいよ土耕民族の血が騒ぎ出す頃かと思われれます。生産部会に加入し生産・販売して収益を上げている方や家庭菜園で野菜を作って去年よりも良い野菜を収穫したいと考えている方、また今年からプランターやベランダなどのミニ菜園から野菜作りを始めようかなあと考えている方など、さまざまな生産者を応援するため、今回の営農ワンポイントは通常の倍のページを使い、野菜作りの基本である「土づくり」についてご紹介します。「土づくり」の目的や良い土の条件で形成される団粒構造について、イラストで説明しておりますので、ぜひご参考にしてください。

## ◆良い土の条件

この3要素のいずれかに問題があれば生育停滞や病虫害の発生が出やすくなり、高品質や多収穫も望めませんので、バランス良く高めていくことが「土づくり」と言えます。

### 1、保水性、排水性(物理性)

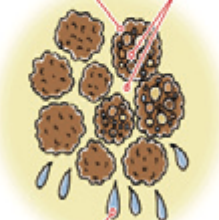
水分や養分、酸素を必要に応じて作物に供給できることが大事で、水が溜まりやすくて根が呼吸出来ない、水分や養分の吸収が上手くいかず生育が阻害されます。

## 団粒構造とは？

### 団粒構造

土の粒は単体粒子がくっついた団粒。

必要な水と養分は、単体粒子の小さなすき間と団粒同士の間に蓄えられる。



余分な水分は大きなすき間から排出される。通気性もよい。

### 単粒構造

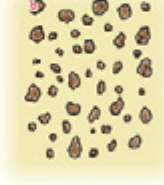
土の粒は単体粒子のままの単粒。

(粘土質)

(砂質)



空間が小さく水が排出されにくい。



空間が大きく粗いので、水はけがよすぎる。



# 土づくりは野菜づくりの基本です。健全な

【指導員】 園芸果樹課（専任指導） 佐藤 譲

## 2、通気性（物理性）

根が健全に生育するためには酸素（空気）が必要です。水やりをすると水は下の方に移動し、重力によって空気が入って根に供給されます。

通気性の良い土では根が活発に伸び、水はけの悪い土では通気性が悪く、根張りが悪くなり生育も停滞します。

## 3、保肥力、適正酸度（PH）、塩基（養分）バランス（化学性）

保肥力とは養分を蓄えておく力（CEC・塩基置換容量）のことで、粘土質の割合が高いほど保肥力があると言われています。

作物にとって適した酸度を保たないと特定の養分を吸収しにくくなり、生育が悪くなります。

また、塩基のバランスも整えないと特定の養分が土に固定され、作物に吸収されなく

なりますので、石灰5…苦土2…加里1の比率を保ちましょう。

## 4、良質有機物と腐植（物理性・生物性・化学性）

落葉や粗大有機物が含まれている土は、養分や水分を蓄えて微生物の活動を盛んにし、作物にとって有益な作用が多くあります。

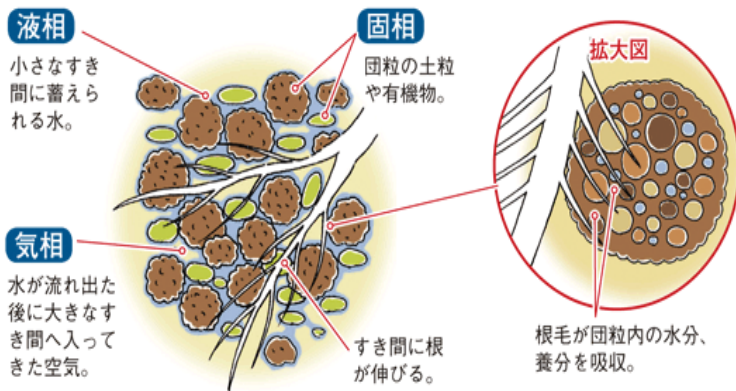
腐植は地力となり団粒化に役立ち、保水性・排水性・保肥性・通気性のある土になりやすくします。

## 5、土壌生物（生物性）

落葉や粗大有機物には土壌生物（小動物、微生物、細菌、カビなど）が棲息し、これらの活動は団粒構造が進み、物理性を高め、有害病原菌などの影響を軽減します。

### 団粒構造内の根の張り方

固相、液相、気相の三相がバランスよく揃っているのがよい土。



（出典 タキイ種苗株式会社タキイネット通販ホームページ）

物理性・生物性・化学性の3要素のバランスを良くすることで、畑の土が団粒構造になれば、おいしい野菜は目前です。皆さんも良い土で野菜づくりを楽しみましょう。